

あなたも めざせ！世界遺産登録 参加しませんか？

鎌倉彫で世界に鎌倉をアピール 伝統鎌倉彫事業協同組合



鎌倉彫の展示会は
鎌倉文化への
理解を深める一環。

鎌倉には守り伝えるべき自然や街並み、神社仏閣、鎌倉時代から育まれてきた固有の文化があり、鎌倉彫もその中の一つです。鎌倉彫は中世に起源し、以来人々の生活に密接に関わってきました。現在、産地を形成するまでの発展を遂げ、日本の誇る伝統的工芸品となっています。

伝統鎌倉彫事業共同組合は、地域団体商標「鎌倉彫」の商標登録をめざし申請をしています。鎌倉は世界遺産登録をめざしてします。共に不可欠な関係を保っていて、共通の想いがあります。将来を見据えて手を携えてくために、世界遺産登録推進協議会に参加して、世界遺産登録のための様々な活動に参加しています。

伝統鎌倉彫事業共同組合として、鎌倉まつり記念パレードの武者行列・アートで後押し、写真美術コンクール等に積極的に参加、活動しています。またその一環で、組合の代表である奴田不二夫さんが、推進協議会の事業部長として、推進協議会のPRや運営資金づくりのための事業をプロデュースする中心的な役割を引き受けています。

奴田さんは「鎌倉彫は、鎌倉を代表する工芸品の一つであり、鎌倉の地域振興・普及・啓発に寄与することに役立ちます。鎌倉彫という鎌倉固有の文化を世界に発信したいと考えています。」と、今後の抱負を語ってくれました。

「古都鎌倉の世界遺産登録」って なに？

鎌倉時代には鎌倉の東の境界とされた六浦（現在の横浜市金沢区）は、政権都市・鎌倉の外港としても重要な拠点でした。その六浦を拠点とした金沢北条氏の氏寺として建立された称名寺の境内には、発掘調査の結果と鎌倉時代末の絵図に基づいて復元された庭園や、もともと僧が行っていた墓塔を建てる習慣を武家に取り入れたことを示す金沢北条氏一族のものと思われる墓塔があります。

金沢北条氏は、古代・中世の政治、歴史、文学、仏教等に関する書物を集め、金沢文庫に収めました。金沢北条氏滅亡後は称名寺が管理した金沢文庫の書物は、戦国大名の北条氏や徳川氏などに持

頼朝公の遺徳を鎌倉全市に 源頼朝会

平成4年、「武家将軍誕生八百年記念祭」を契機として、古都鎌倉の歴史を勉強し、源頼朝公の遺跡の研究と顕彰を行い、会員の資質を高め、古都の発展にも資したいと源頼朝会は発足しました。この年には鎌倉の歴史的遺産がユネスコの世界文化遺産への暫定目録に登録されました。鎌倉世界遺産登録推進協議会発足と同時に源頼朝会のメンバーが広報部会と事業部会に参加し熱心に活動しています。

源頼朝は正治元年（1199年）正月13日に53歳で死去しました。源頼朝会では、毎月13日には会員が相集い、墓前の清掃や整備に励んでいます。清掃後は、小池会長より頼朝公の事績、鎌倉幕府800年の栄枯盛衰が説かれ、青空教室の趣を呈します。世界遺産登録への道の険しさが報じられる昨今、勉強研修と相まって頼朝公墓前の白幡神社境内で講じられています。

毎年4月13日には鎌倉まつりの一環として頼朝公報恩会にも参加します。盛大に墓前祭が挙行され、九州島津家32代当主島津修久^{のぶひさ}さんも臨席されています。この墓地周辺の土地は平成14年に島津家から鎌倉市に寄付されました。

会を代表して推進協議会に参加している都筑健一さんは、「歴史と伝統の宝庫である鎌倉に住む私たちの幸福を願い、八幡宮前振興会を母体とする源頼朝会を結成し、頼朝公の命日である正月13日をもって、毎年、新春の寿ぎを行っています。遺徳を偲ぶ周辺地域の有志により頼朝祭を挙行し



頼朝公墓前清掃後の勉強研修。

広報誌を出版していますが、この頼朝会の趣旨を鎌倉全市に広めたいと願っています。」と話していました。

第8回 横浜・称名寺も古都鎌倉の一部なの？

ち出され、鎌倉の武家の教養が後世の武家に影響を与えることになりました。

また、鎌倉幕府の執権を務めるなど政権の中核にいた金沢北条氏ならではの、当時の政治情勢を伝える書状や、鎌倉の寺院間の茶の贈答、称名寺や鎌倉の宅間ヶ谷に茶園があったことなど、禅宗寺院以外にも喫茶の風習が広がっていたことを示す文書などが伝わっています。

このように称名寺は、鎌倉時代の武家の教養や文化を様々な形で今に伝える貴重な遺産です。